



第554号
2019年1月4日

発行・自治労連千葉県本部
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060
mail union@jichiroenchiba.jp
URL http://www.jichiroenchiba.jp/
責任者・齋藤 実 編集長・片山 敦史

お話を聞かせていただいた(写真左から)永田さんと川名さん



地域ぐるみでイノシシ対策



今年も近年。人間の歴史と深く関わってきたイノシシは今、農作物に多くの被害をもたらす厄介な存在になっています。南房総市で鳥獣被害対策にあたる永田祥明さんと川名孝平さんにお話を聞きました。

南房総市 農林水産課

2000年代に入り拡大した被害

千葉県の資料によれば県内のイノシシは、1970年代中頃に絶滅したと推測されています。ところが、80年代に他の地域から持ち込まれ房総半島南部に分布を広げました。南房総市には2000年前後に北部から侵入し、現在では南端の白浜でも定着が確認されています。

2000年代に入り拡大した被害



謹賀新年

県本部委員長 齋藤 実

昨年、安倍内閣が強行した「働き方改革関連法」は、残業上限を月100時間まで認めるとともに「8時間働けばまともにくらせる社会」を求め私たちの運動によって公務職場でも原則「月45時間まで」の上限規制が4月から導入される前進面もつくり出しました。今年も、会計年度任用職員制度も含め公務の働き方改革が課題になります。また、政府は自治体にAIを導入し職員を半減するなどの将来構想の検討も進めています。そして憲法を守る運動は正念場を迎えます。これまでの自治労働運動をさらに発展させ、憲法をいかに職場と社会をつくるためにみんなが奮闘しましょう。

指しています。

市独自の防護柵設置補助制度で支援

「防護」を担当する永田さんは、柵を設置しイノシシの農地への侵入を防ぐことを目指しています。

捕獲体制の維持・強化へ

「捕獲」を担当する川名さんは、農家や猟友会等の関係者が各地区で組織する鳥獣被害対策協議会の事務局を担っています。

い補助制度をつくり設置を支援しています。

ています。一説には市の人口(約3万8千人)を超える頭数が生息するのではないかとされています。イノシシによる農作物への被害は、21世紀に入り拡大し、07年には市内の被害額が6千万円を超えました。対策が求められる中、南房総市でも①捕獲、②防護、③環境整備の3本柱の対策で「被害に強いまちづくり」を目指しています。

市は国の補助制度の他に独自に農家の要望に合わせた利用しやすい

住民との協力で被害額を3分の1に

耕作放棄地が増え、過疎化と高齢化が進むなかで、害獣の頭数を



物理柵



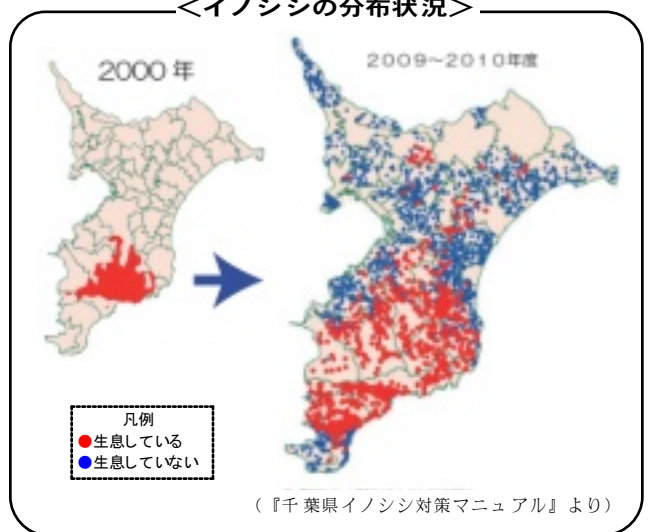
箱わな

鳥獣被害対策の基礎データ収集に奮闘

けものみちをかき分けてイノシシの生態に迫る

千葉県暖地園芸研究所

<イノシシの分布状況>



(『千葉県イノシシ対策マニュアル』より)

千葉県では、農林総合研究センターの暖地園芸研究所でイノシシの生態研究、捕獲方法の研究、環境整備や防護策の効果測定をしています。生態調査では、南部の山中で痕跡を調べ、赤外線カメラを設置しデータを収集しました。地元の人に相談し、試行錯誤しながら季節

減らすことは簡単ではありません。しかし、住民と協力してすめてきた対策が功を奏し、農作物への被害額は最高時の3分の1程度にまで減らすことに成功しています。永田さんは、「住民から『おかげで被害がなくなったよ』と言われるとうれしい」とやりのかきを感じています。イノシシといえど命(県本部・黒濱)